

環境審議会総合政策部会の審議状況

<第1回総合政策部会（平成24年12月18日）>

【説明事項】

- 環境基本計画の改定の背景
- 第3次愛知県環境基本計画の取組状況
- 県政世論調査・モニターアンケート及び有識者ヒアリングの状況

【委員からの主な意見】

○計画の総論・方向性等について

- ・ 個別計画のとりまとめではなく、包括的な記載とする
- ・ 脱温暖化、資源循環、自然共生の各分野を統合するための策を重点的に示す
- ・ 社会状況の変遷、バックグラウンドをよく認識すること
- ・ 県民にわかりやすい計画とすること

○分野別の意見・目標値・取組等について

- ・ 安全・安心
アスベストの動向や、有害な物質等への国の規制・動向にも注視が必要、防災の観点も検討すべき
- ・ 低炭素（温暖化対策）
分散型の地域エネルギーの推進、
脱温暖化ではなく温暖化の抑制という視点が必要
- ・ 農村部で深刻化が予測される鳥獣害対策の観点
- ・ 教育への取組の重要性
- ・ 目標値
目標達成に向けた具体的方策の検討が必要
数値目標で見えない部分の評価についても検討が必要
- ・ 環境に配慮した行動に「価値観」を見いだす社会づくりの視点

<第2回総合政策部会（平成25年3月21日）>

【説明事項】

- 本県の社会経済及び環境の状況
- 本県の各種計画に示される将来の目標等
- 2030年の愛知のあるべき姿
（「環境首都あいち」とは、2030年愛知のあるべき姿（マトリックス）、
第4次愛知県環境基本計画の基本的な方向性）

【委員からの主な意見】

○「環境首都」について

- ・ 「環境首都」とは「環境意識と環境技術がトップランナーとして世界を牽引する地域」など、わかりにくい説明となっていることから、
県民に対してわかりやすい表現にする必要がある

○マトリックス、その他について

- ・ 環境を常に意識するライフスタイルが定着するためにはまず価値観を変えていくことが必要
- ・ いつも環境を意識するのではなく、考えなくても自然と環境に配慮されていることが望ましい
- ・ 安全・安心は、公害の概念からもっと幅広いものとなっている
- ・ 低炭素社会、自然共生社会、資源循環社会ができてこそ、安全・安心が守られるという考え方もある
- ・ 船のイメージ図について再検討が必要
- ・ 資源循環の分野だけでなく、低炭素、自然共生の分野においても県域を超えた広域連携が必要